

会長 遠藤家之進正和
 新潟県山岳協会
 新潟市南区鷺ノ木新田1049
 TEL 025-362-5004

事務局 諏訪恵一
 長岡市高畑町610-10
 TEL 0258-35-4373

編集 新山協ニュース編集
 委員会代表 浅野亘寛
 TEL 0258-52-3998

新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

崑崙山脈未踏峰調査

トレッキングに参加して

会報編集委員会 井口光利(見附山岳会)

この度、県山協・青海省登山協会兄弟締結15周年の旅《崑崙山脈未踏峰調査トレッキング》に参加し、高地における低酸素の中での行動を体験することができた。

6/16 桜井隊長以下6名新潟空港に集合し、山田参与・本間・北村両理事の見送りを受け、上海→西安→西寧着。青海省の省都であるここは標高2300m。新潟から約12時間今回の旅の入口である。夜遅くにもかかわらず空港には青海省登山協会のトップ鄧秘書長自ら出迎えて頂き、改めて県山協との親交の深さを感じた。

6/17 現地スタッフ4名と3台のトヨタ・ランクルで小雨の中、ゴルムドまで約700kmの走行。

6/18 標高2900m。高度順応のため終日ゴルムド滞在し長旅の疲れを癒す。

6/19 小雨。ラサまで続く国道を、西大灘招待所

(4150m)まで2時間半で標高差1350mを移動。低酸素のため身体が重く感ずる。昼食後、小雪が舞う中、2・4km程先の青蔵鉄道線路まで高度順化をかね散策。線路付近で羊の群れを連れた父子に出会い、しばし身振り手振りの放牧談義。

宿泊地の部屋の温度は5℃。備付の石炭ストーブで暖をとりながら、就寝。

6/20 BC設営地へ向かう。前日の雪もやみ、凍土の上にかすかな轍の残るルートを走行し、橋なき川を渡る。積雪15cm位。傾斜が増し先頭のランクルがスリップし、ぬかるみの為スタックしてアウト。別の車で救出後、雪のないうち4250m地点まで下り、BCを設営。

少し動く度に呼吸が苦しく酸素の希薄を感じる。午後3時また雪が降り出す。(今年この地域は、二十数年来の悪天候が続いているとの事)

6/21 曇天の中、目標の未踏峰(標高5656m)への探査開始。車で昨日の到達地点迄行き、来年度本隊のABC設営予定地に向け登り始める。積雪20cm。傾斜が増す毎にトップとの差が開くばかり。ハアハアと30分歩いては10分休みのペースである。また雪が降り始める。右の稜線に数頭のチル(チベットカモシカで特別保護動物)が我々を見ている。トップは本日のタイムリミットの12時に標高4600m地点到達。それに遅れること20分で合流。ABC設営予定地には

雪では限界とのことである。下山開始後午後2時車に戻る。そこで2台共またスタック。青空が広がりましたが、なので、車の救出はスタッフの3人にまかせ、はるか彼方のBCまで凍土の大地を歩く。日差しが眩しく、快適そうに見える土面は結構デコボコの上、雪が解けた直後でぬかるみ疲れが増大した。天候もようやく回復。周囲の峰々(無名峰)が真白く輝いており、来年度目標の未踏峰(5656m)も後方に輪郭を現した。コックの王さんが昼食兼夕食を準備してくれていたが、頭痛と吐き気で食欲なく、そのままシユラフに潜り込む。

6/22 快晴 体調好調の3名と王連絡官とBC出発。しかし、車がスタックし、1名は歩いてBCへ戻り救出の要請を余儀なくされる。昨日のルートでなく、尾根ルート

た直後でぬかるみ疲れが増大した。天候もようやく回復。周囲の峰々(無名峰)が真白く輝いており、来年度目標の未踏峰(5656m)も後方に輪郭を現した。コックの王さんが昼食兼夕食を準備してくれていたが、頭痛と吐き気で食欲なく、そのままシユラフに潜り込む。



無名の未踏峰ベースにて青海省スタッフと

より2名が4600mのピークまでの探査に成功。私はテント場付近にいる鳴きウサギの写真でもとフラフラの身体で散策開始。

6/23 快晴 BCを後に再びゴルドムドに向け出発。久しぶりにホテルでシャワー、洗濯やらで半日を過ごす。

6/24 今回の第2の目的地である、魔鬼城に向け出発。ここは非解放区だが、青海省登山協会の計らいにより特別許可がでた地域とのこと。

大紫旦を経由し幹線の敦煌への分岐を過ぎると、紫達木

盆地の砂漠の中、国道とは名ばかりの悪路で塩分を含んだ砂が固まっただけの道で、所々砂嵐で作られた吹き溜まりを迂回しながら幕営地に着く。

地平線までの全てが、太古の河床が乾燥し、固い部分が風雪の侵食で遺跡と化し、初めてみる異色な光景に思わず息を呑んだ。テント設営時、急に天候が悪化し、塩分交じりの砂嵐と小雨で我々のテントが見事に裂けてしまう。小型

のスタック用テント2幕が我々用となり、彼らは覚悟のビバークとなる(砂地に天幕を敷き、その上に寝袋で休んだ)。その後天候回復し、月と星の砂漠を体験。

6/25 にわか考古学者や地質学者となり終日砂漠(魔鬼城)を散策。

6/26 魔鬼城を後に一旦大紫旦まで戻り、標高3800m級の峠越えの後、本日の宿泊地、青海湖畔の信越山荘到着。

6/27 ようやく今回の遠征も終

盤となりつつある。信越山荘から再び西寧に向かう。点状する農村風景から、西寧に近づくとつれ、開発が急ピッチで進んでおり、やがて大都會が出現することであろう。

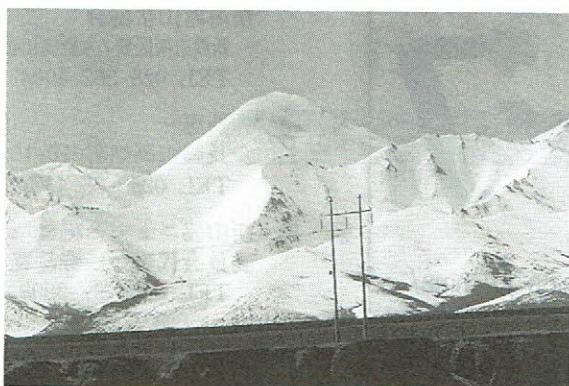
6/28 午前1時30分、ラサへの天空の列車旅隊とホテルで再会を喜び、就寝。午前中はタール寺見学。午後フ

リ。夕方6時から15周年記念パーティがホテルにて開催された。とても有意義で親

睦をさらに深いものとした。6/29 西寧→上海へ。上海(ホテル)泊

6/30 上海→12:50新潟空港着

知識としては理解していたつもりだが、いざ体験してみるとこれほど高度順応の成否が以降の行動に影響するとは思っていなかった。この経験を今後の高所登山に活かしたい。



BCの帰路から見た未踏峰

片桐 一夫さん

青海省登山協会終身顧問に推薦される

6月28日 新潟県山岳協会と青海省登山協会との兄弟締結15周年の式典が西寧市でとり行われた。

式典に際し片桐一夫(県山岳協会副会長)さんは、ほぼ毎年の訪中と今後も重要な交渉など煩雑な業務にたずさわられる事に対して、青海省登山協会より感謝の念をこめ、終身顧問として請われ受諾した。国内では藤井信さん(県山岳協会参与)につづいて二人目である。



終身顧問 片桐氏

登山・アウトドアの専門店

ICI 石井スポーツ
新潟店

Tel (025) 241-5134

長い間親しまれた新潟駅前店を新潟とやの店に統合し、9月上旬新生『ICI石井スポーツ新潟店』として更なるバージョンアップを目指しリニューアルオープンいたしました。

飯豊・朝日連峰の

自然環境と登山道整備について

自然保護委員長 本間 一人 (亀田山岳会)

飯豊の道が荒れている。何とかして欲しいという働きかけを県環境部自然保護係りと3年前から話し合いを続けてきた。ご存知のとおり飯豊連峰は新潟、福島、山形県にまたがった、広大な地域である。

山岳関係者、(新潟からは自然保護委員会として私、本間と下越山岳会の藤井三郎氏が参加)、コンサルタント(「ニュージック」、環境省との間で4回にわたり、検討会議を重ねた。

そこで3県の関係者が集まる機会をお願いしてきたところ、山形県側からも強い働きかけがあり、関川村(「のーむ」)に於いて磐梯朝日国立公園飯豊地域の登山道整備に係る意見交換会が開かれた。

昨年は梶川峰と種蒔山に分かれて実証試験を行い、8月3日~4日には温ミ平で流水のコントロールのやり方を多くの岳人が(新潟からは10人)講習会に参加して技術を習得した。

その後ワーキンググループをもうけ3県の行政関係者、

8月31日~9月3日には御西岳周辺で流水で削られた沢



飯豊登山道の整備



石を置き土流を防ぐ

状の箇所を大きな石を運び、力石として周辺の石を組み合わせ、講習会で習得した技術をいかに発揮して流水のコントロール工事を完了した。

翌日は緑化ネットをはって、その下に周辺から播種した草の種を敷き2日間の作業を終了した。新潟の山岳関係者の参加は12人だった。大変ご苦労様でした。

9月22日~24日には飯豊のふところの最も深い天狗の庭で実証試験が実施される。意見交換会においてランク付けを行い、早急に修復をしなければならぬ場所と、急がなくても良い場所を検討して数年をかけて修復して行く計画である。是非一度は参加していただきたいものである。

尚、朝日連峰も修復に関する意見交換会が開催されました。情報をお寄せ下さい。

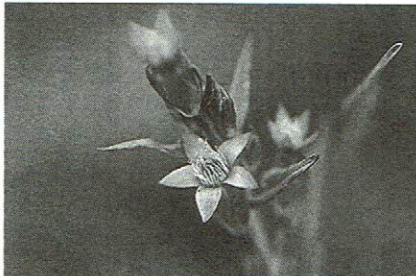
以上国立公園に関する修復作業であるが、県内に於ける山岳は国定公園、県立公園等沢山あり、トイレ、裸地化、盗掘をテーマに県自然保護係りと懇談会を続けており、皆様の情報をもとにより良い山岳環境をつくり後世に渡すのが私共の努めとおもいます。今後ともご支援ご協力の程宜しくお願いいたします。

越後の山に見られる 変種植物

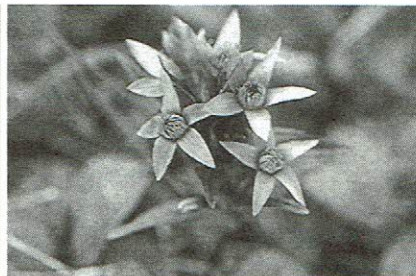
むささび会 加藤 明文

◆ チシマリンドウ 属

⑬ オノエリンドウ



オノエリンドウ 白馬岳 8月25日



母種 ノーザン・ジャンシャン カナディアンロッキー 7月12日

本県では白馬連峰だけに見られる。「尾上竜胆」と書き、尾上とは峰の上、つまり高峰の言い方を変えたもの。北海道のユウパリリンドウと姉妹で、亜種名は Takedae で武田博士への献名。

母種は地球の北方に産する「ノーザン・ジャンシャン (英) northern gentian」で北方のリンドウの意。種名は Amarella で「若いの意」日本のものより大型で花数も多くつく。

国上山、弥彦山、角田山 一日縦走 ②

新潟山岳会 鈴木勝利

◆日 程：2007年4月20日

◆記 録

猿ヶ馬場への下りにはすっかり「ワラビモード」に切り替わり、我らの視線は地面に釘付け。前方不注視のため、茨の枝に絡まれて悲鳴をあげながら猿ヶ馬場に着く。ガードレールを跨ぎ、スカイラインの左カーブを半円分だけ歩き、横断すると雨乞山登山口だ。腹も減ったがそのまま登りにかかる。頂上付近の斜面はカタクリの大群生地だが、残念ながら半分くらいが色褪せている。雨乞山から八枚川方面の分岐は分かりにくい。雨乞山頂上から作業道を少し下ると、(NTT雨乞山線 No18)電柱がある。電柱の下をガードレール越しに探すと、わりとはっきりした踏み跡が見えるのでそこを跨ぐ。踏み跡に入った木陰でひと休みし、軽い食事とコーヒーを飲む。西に下る途中の北斜面には、まだカタクリや雪割草が綺麗に咲いていた。この斜面は八枚川から吹き上げる風が冷たいので、他の場所より花の時期が遅いようだ。鞍部から少し登り返したピークに案内標識がある。そこから東方向に急な斜面をどんどん下る。ヤブツバキの鮮やかな赤色が印象的だ。八枚川まで下り、鉄板の一本橋を渡ったところが分岐点だ。左に登ると弥彦山、右に下ると八枚川登山口である。ここからの登りは少々キツイ、覚悟を決めて登りにかかる。汗だくになっての登りだが、イカリソウやフデリンドウ、遅咲きのカタクリや雪割草などが綺麗に咲いていて気がまぎれる。周囲の見通しが良くなり、一服したいなと思った頃ベンチに着く。アルミ製の綺麗なベンチだ。タバコに火を付けようとしたらカーチャンに追い越される。タバコを吸うのが気に入らないらしい。意地で1本吸って後を追う。弥彦山の頂上にはハイカーや観光客が大勢いた。すれ違いの挨拶「コンニチワ」がだんだんと小声になる。九合目の売店で大休憩とした。冷たいコーラの美味しいこと。自販機の缶ビールも気になったが、先が長いので今日は我慢だ。九合目からは、弥彦山ロープウェイ山頂駅前を通って、階段を下り、スカイラインを3度横断して多宝山の登りにかかる。広く明るい道をジグザグに登り、満開の花々を見ながら頂上に着く。弥彦山の上部もそうだが、ここの花はまだ最盛期を少し過ぎたくらいで、色も濃くて美しいカタクリが満開である。頂上で休憩しようと思っていたが、大勢の登山者で賑やかなので通過することにした。スカイラインに続く広い道を下ると分岐に案内標識が立っている。分岐から北東方向に下って石瀬峠に向かう。偵察の時はオウレンの花が林のように咲いていたが今はすでに終わり、代わりに白いイカリソウの花があたり一面に咲いている。赤いアオキの実も陽射しに映えて美しい。どんどん下って行き、杉林の急斜面を下って石瀬峠に着く。ここから間瀬までの間は、殆どの縦走者がスカイライン沿いに歩くようだが、我々はこだわって山道を行くことにする。石瀬峠から岩室温泉登山口方面に向かって登る。登り始めてすぐ1つ目の案内標識があり、(岩室温泉登山口)と(多宝山、弥彦山)方面の矢印が書いてある。(岩室温泉登山口)方面に進むと間もなく2つ目の案内標識があり、(松岳山、神明神社登り口)方面の矢印がある。我々は矢印の無い北方向へ真直ぐ進む。杉の枯れ枝で覆われて踏み跡は殆ど見えない。尾根通しに進むと明るくなり、微かな踏み跡が見えてくる。倒木や枯れ枝を避けながら下ってゆくと尾根上の末端になる。右下を越えしにスカイラインが見える。ギリギリ末端から右へ藪に絡まりながらスカイラインまで下る。下りたところから向こう側に横断し、ガードレール沿いに右へ進む。25~30mでガードレールが切れる。さらに進み、ガードレールの端から10~15mくらいのところから、微かな踏み跡が沢へ下っている。葎や茨の枝、木の枝などを避けながら進むと沢床に付く。後のカーチャンは茨の枝に絡みつかれて渋い顔だ。沢沿いに歩き易いところを探して歩く。七部咲きのニリンソウが可憐だ。だんだん踏み跡がはっきりしてきたころ、右手にコンクリート製の階段がある。階段に沿って上からロープが下がっている。そこを登って、左へ約30mで間瀬に到着。そこから道路を横断し樋曾山の登山口に着く。登り口で休憩し、2本の350缶ビールの内1本を飲みながら昼食タイムとした。あとの1本は角田山での乾杯用だ。ゆっくり休んでから樋曾山の登りにかかる。最初の急登はキツイ。左右の腿が交互に痙攣する。登っていると治るのだが、休憩直後はしばらく続く。少し疲れがでてきたようだ。偵察当時は花が満開で綺麗だったが、今は殆ど終わってしまった。ところどころ新緑が逆光に輝いて綺麗だが全体は単調な霧田気だ。そのせいか、五ヶ峠までの距離が異常に長く感じられた。弥彦山九合目あたりでは、この先はたいしたこと無いと思っていたが、疲れのせいか思うように捗らない。カーチャンと、「ヨッパランナッタナ」と言い合いながら歩く。ようやく五ヶ峠に着いて、軽い食事とコーヒーを飲む。カーチャンは、「コーヒーが美味しい、インスタントなのにこんなに美味しいと感じたのは初めて、コクがある」と言ってお代わりしている。たっぷり休憩してから角田山の登りにかかる。五ヶ峠からの登山道は広いうえに整備されていて、まるで公園内を散歩している霧田気だ。広いならかな山道を登ってゆくと、右手に東屋が見える。タバコを一服つけようかともくろんだが、カーチャンが先に行くので仕方なくあきらめた。歩きタバコをしていたら見つかかり、咄嗟に脇見でごまかす。疲れの精か芸が荒くなったかな。浦浜の分岐、灯台の分岐、三望小屋脇を通り、角田山に「17時07分」到着。頂上は陽が射して明るいさすがに誰もいない。我々だけの頂上で、残り1本の缶ビールで乾杯。あとは宮前登山口まで下るだけ、気分ゆったりでビールを味わう。ついでにタバコも。暫くしたら小さな犬を連れてご婦人が登ってきた。桜の開花がどんなか様子を見に来たらしい。下界ではすでに満開を過ぎたがこの蕾はまだ固い。ビールも無くなったし、何時もの調子で、「さて下りるか」の掛け声で頂上をあとにする。湯の腰温泉コースの分岐を過ぎると急なやせ尾根の下りになる。疲れているので、普段はめったに触れないロープを時々握って慎重に下る。海の方を見渡すと、穏やかな海面が太陽光に輝き、山あいには幻想的な光景が広がっている。下るにつれて木立が高くなり、鞍部まで下ると海は見えなくなった。ここを登り返せば登山口まであと一息だ。今朝からのことを思い起こしながら下っていると、ところどころ日の陰った木立の中に、満開の山桜が逆光に映え、沈んだグレーの空間に浮かぶように咲いている。何度も立ち止まって眺める。縦走の最後を飾るにふさわしい光景だ。竹林、松林を通して無事宮前登山口に「18時09分」到着。三山一日縦走を終了。

2007年度

親睦登山 (旧松之山町核心部) の

一 ぞ 案 内 一

新潟県山岳協会

会 長

遠藤家之進 正和

総務委員長

七 沢 恭 四 郎

◇ 目 的

懇親会、登山を通じて和気あいあいのもとに、各加盟団体相互の親睦を図る。

◇ 主 催 新潟県山岳協会

主 管 総務委員会

◇ 期 日

10月27日(土)

10月28日(日)

◇ 場 所

十日町市松之山天水越

『バードガーデン希望館』

TEL 025-596-2556

◇ 日 程

17日

15:00 受付

16:00 開会 講演

17:30 閉会

講師 田辺 慎一氏

18:00 懇親会

28 日

6:00 起床

7:00 移動

7:30 登山口

11:00 頂上

15:00 登山口にて解散

◇ 持 参 品

シユラフ、食糧(夕食有り、食器、嗜好品、朝食持参)、登山用具

◇ 参 加 費

3,000円

◇ 申 込 先

〒943-0154

上越市稲田4-12-31

七 沢 恭 四 郎

TEL&FAX

025-523-7661

◇ 締 切

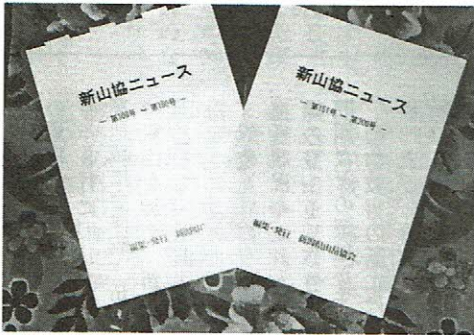
10月22日

☆詳細は各団体へ送付の案内書を確認してください。

『新山協ニュース』の

製 本 と 保 存

発送されてきた『新山協ニュース』をどのよう
に保存しておいでだろう
か。
年度ごとにリングフ
イルやクリップフ
イルで保存しておられる山
岳会事務局や個人購読者
がほとんどと聞く。藤巻道
夫さん(糸魚川
山岳会)の例を
紹介したい。当
初はバインダー
やファイルでの
整理保存を考
えておられたよ
うだが、散逸の
心配もなく特
に連載のもの
に通ずる時に
便利な製本を
考えたようだ。
厚さは50部
位が適当で、
第250号)が
発行されると
3冊目にな



藤巻道夫さんの『新山協ニュース』製本・保存の例

JTB Your Global Lifestyle Partner

70th Anniversary

JTB関東 法人営業新潟支店

新潟市中央区古町通6-976

TEL:025-224-2201 FAX:025-229-5775

http://www.jtb.co.jp/shop/houjinniigata/

※“旅”の最新情報、ご覧になれます。

E-mail:h_mitani388@jtb.jp

腰痛・肩こり・冷え・筋力低下

細菌衛生・さい帯血保管 等

総合健康医療器機販売

メディカル ユングフラウ

電話 090-3173-0540

行 事 案 内

第45回 自然保護研修会の開催のご案内

新潟県山岳協会 会長 遠藤家之進正和
自然保護委員会委員長 本間 一人

- ◇主 催 新潟県山岳協会
- ◇主 管 新潟県山岳協会自然保護委員会
- ◇日 時 平成19年10月20日(土)～10月21日(日)
- ◇場 所 南魚沼市清水647番地
巻機山山麓 『雲天』 ☎0257-82-3473
- ◇日 程 20日 14:00受付/15:00開会・講演/17:00閉会/18:00懇親会
21日 5:00起床/6:00移動/6:30巻機山登山/14:00解散予定
- ◇講 師 松本 清氏 「巻機山の植生復元について」
- ◇持 参 品 日帰り登山装備・嗜好品
- ◇参加費 ¥7,000(夕食と朝おにぎり) 日帰り参加者は¥1,000
- ◇申込先 〒950-0120 新潟市江南区横越上町2-11-6
自然保護委員会 本間 一人
- ◇締め切り 10月10日
ハガキ・Tel/Faxにて 025-385-2225

☆詳細は各団体へ送付済みの案内書をご確認下さい。今年は飯豊連峰の登山道整備も始まり、朝日連峰への整備にも動き始めました。飯豊・朝日連峰の登山道整備にぜひ参加して下さい。研修会に参加したのものととしてカウントしたいと思います。

編 集 こ う き

▲先日県庁内で環境企画課と県山岳協会自然保護委員会との連絡会に同席させて頂いた。今年8月に旧日光国立公園尾瀬地域に会津駒ヶ岳と田代山・帝釈山を加え、新たな国立公園として「尾瀬国立公園」が指定されたとの報告。

飯豊連峰の登山道修復整備進行状況やこれからの朝日連峰の登山道補修整備、トイレ問題などの議題が主体だった。動物被害の話にはいたらなかったが、今年は各地で早い頃からクマの出没、遭遇の情報も多い。サルなどもいままでも出没しなかった地域でも群が目撃されている。共存を考えると憂鬱なシーズンにならないかな。

▲秋分の日も間近くなってようやく朝晩が過ごしやすくなった。標高の比較的低い近辺の山もあの汗みどろから開放されるのが嬉しい。沢からは大分距離があると思うが、すっかり甲羅の乾いたサワガニが一匹迷い出ていた。おせっかいと思うが袋に入れて大きなサワグルミのある小沢へはなしてやる。早々に水辺の小石のかげにもぐりこんだ。沢をまたいだ岩陰にダイモンジソウが涼やかだった。

(会報編集 浅野)

海外・国内旅行、主催・手配



ユニオン航空サービス

国土交通大臣後援旅行業第553号・IATA代理店 (社) 日本旅行業協会会員
本社：新潟県長岡市幸町1丁目3番5号

<http://www.uks.co.jp>

- 長岡営業所 〒940-0284 長岡市幸町1丁目3番5号 ☎ (0258)33-7123
一般旅行業務取扱主任者 森 洋樹
- 新潟営業所 〒950-0918 新潟市東山3丁目9番11号 ☎ (025)246-2266
一般旅行業務取扱主任者 中島 聖

登山・ハイキング・クライミング テレマーク&山スキー



パーマーク

長岡市西宮内2-97(長岡市役所裏通り)
TEL0258(37)1200・FAX0258(33)1164
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜日休

<http://www.parrmark.co.jp>